SHIRO 城 FUMI 踏

姫路市立城郭研究室ニュース「城踏」No. 82　2011年12月１日
編集・発行；姫路市立城郭研究室
〒670-0012　姫路市本町68-258　日本城郭研究ｾﾝﾀｰ内
TEL　079-289-4877　FAX　079-289-4890
URL　http://www.city.himeji.hyogo.jp/jyokakuken/

# 続・清水門跡の石垣

## 石垣修理工事に伴う現地説明から

### １　解体調査の成果

今回の解体により石垣裏側の構造が明らかになりました。石垣築石の裏側には１mから50cmの厚さで河原石を充填した栗石層がありました。これは浸み込んだ雨水などを排水するためのものといわれています。今回の調査では、この栗石層の下から約20～40cm間隔で目の細かい砂の薄い層が入り込んでいる様子が確認されました。これは、石を積みながら一段ごとに裏の栗石を詰めていった作業工程の単位と見られます。目の細かい砂の層が入るのは、浸み込んでくる雨水を層ごとに石垣外へ排水しやすくする狙いや、土層の締め固めのためなどの可能性があります。

また、解体した石垣の石材に墨で字または記号と思われるものが書かれているのも見つかりました。墨が薄いため判読はできませんでしたが、石材を集めるときか石垣を積むときの目安になりものではなかったかと推測されます。

なお、これ以前の修理工事の成果については、すでに「城踏」№71で紹介しています。

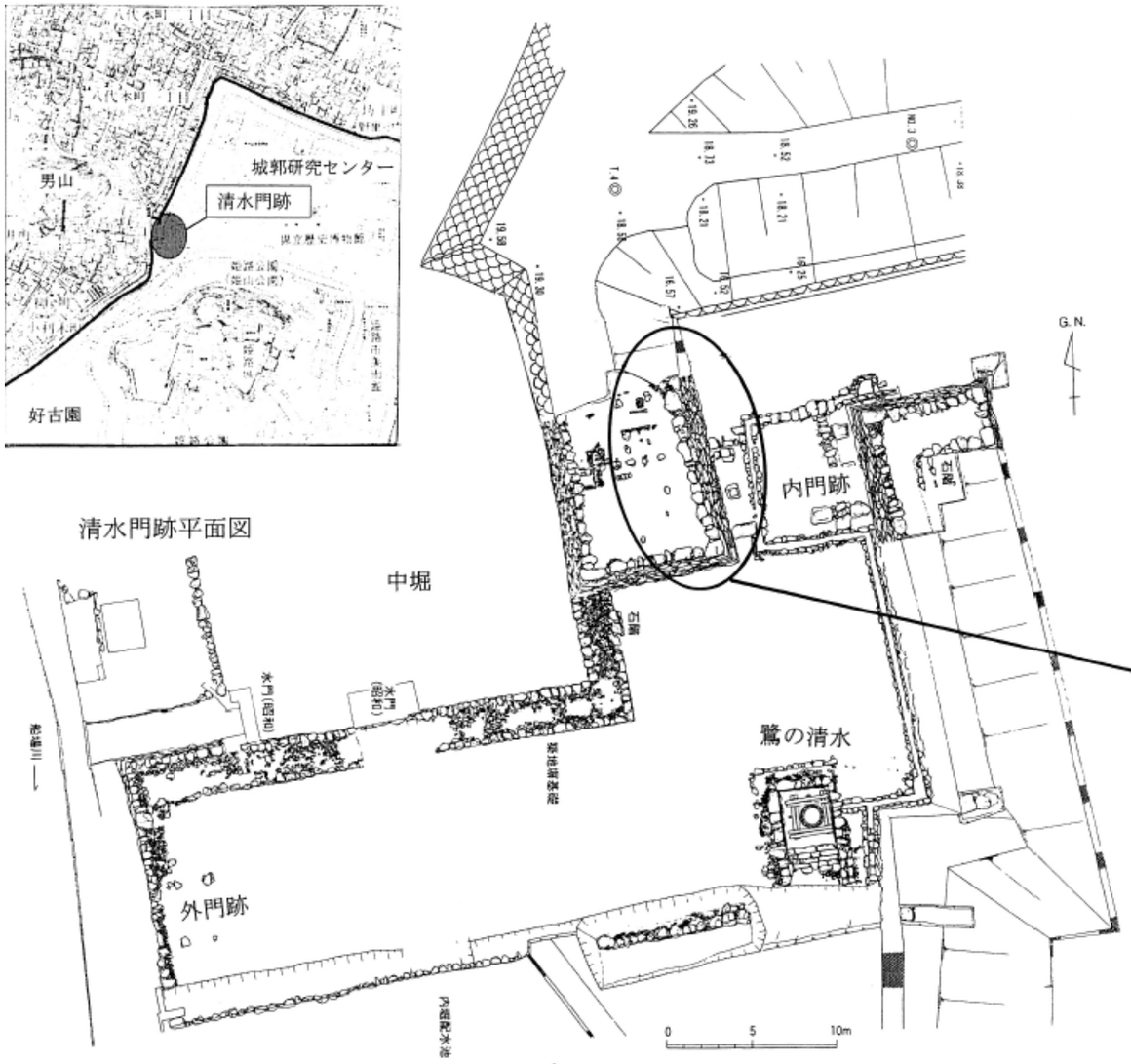
### ２　修理工事の概要

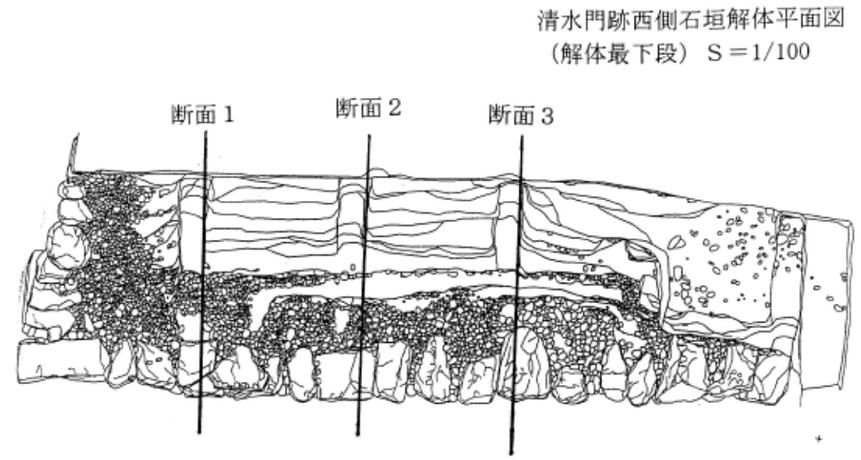
修理工事は2011年10月22日から2012年３月頃までの予定で行っています。

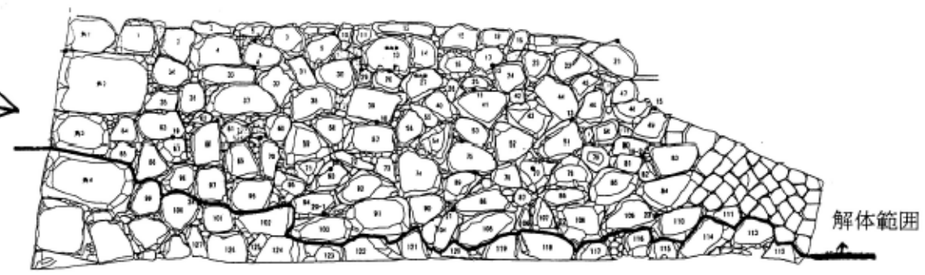
解体は石垣に孕みなどの傷みが見られる箇所の52㎡（立面積）の石垣石材を解体し、割れて再利用できない石を新しい石に取替え、長年の経過による石垣のズレや孕みなどを補正しながらつ積み直していきます。

解体するときには石垣の石の場所を記録し、それに基づき元の場所へ積み上げていきます。今回は、割れなどによる取替え石は６個の予定で、それ以外は本来の石を使います。このように、できるだけオリジナルの石垣に戻すことを基本に修理を行います。

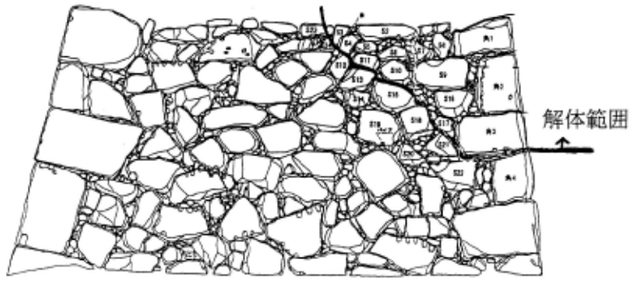


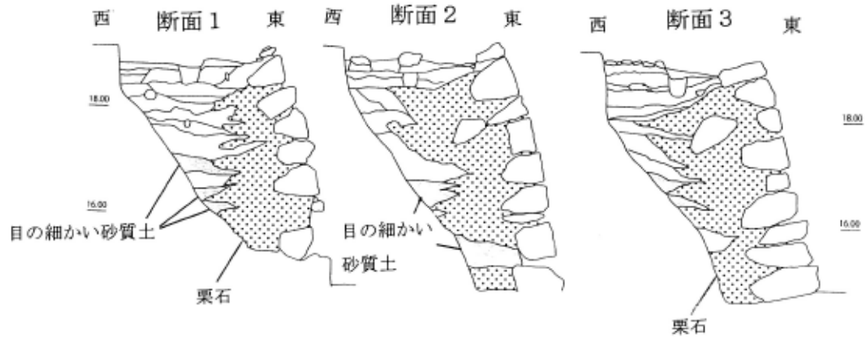




清水門跡　西側石垣立面図
（東面）　S＝1/100




清水門跡西側石垣立面図
（南面）　S＝1/100




清水門跡西側石垣解体断面図　S＝1/100